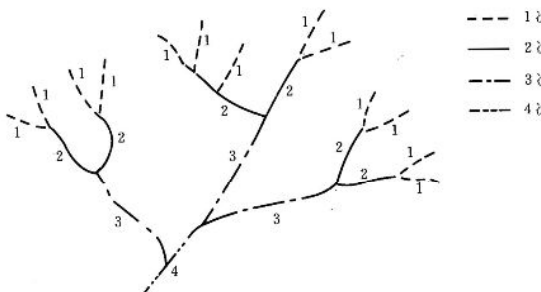
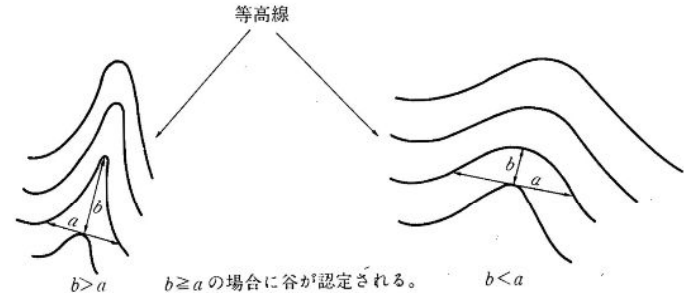

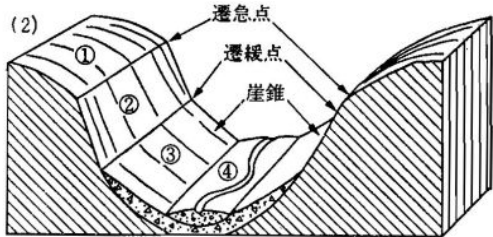


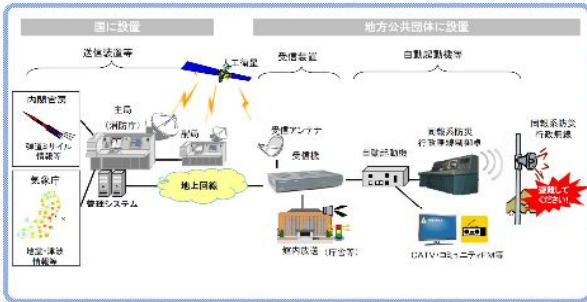
【用語集】

索引	用語	解説	資料番号 ページ数
あ	ASO 安心メール	阿蘇市が、登録した住民を対象として送信する電子メール。阿蘇地域全体の火災情報、市内で発生する災害や犯罪の情報が提供される。	資料4 p.92
い	1次谷、2次谷	<p>谷における格付けを数値化したもの。最上流の谷を1次谷と呼び、1次谷同士あるいは1次谷と2次谷の合流点下流の谷を2次谷と呼ぶ。</p>  <p>図：谷次数のイメージ (土砂災害調査マニュアル、p.12より引用)</p> <p>なお、多くの場合、等高線の奥行きが幅より大きい場合に谷と定義される。(関連項目：0次谷)</p>  <p>図：谷の定義 (土砂災害調査マニュアル、p.12より引用)</p>	資料3 p.33
	一連の降雨	雨が降りだしてから降りおわるまでの降雨のこと。砂防分野においては24時間連続で降らない場合には以降の降雨は別の降雨と見なし、23時間未満で次の降雨が観測された場合には一連の降雨と見なすことが多い。	資料3 p.39
お	凹型地形	凹んだ地形のこと。地形上、地表水や地下水が集中しやすい。	資料4 p.52
	大雨警報	気象庁が、大雨によって重大な災害が起こるおそれがある旨を警告して行う予報のこと。(関連項目：大雨注意報、土砂災害警戒情報)	資料3 p.31 他 資料4 p.3 他

索引	用語	解説	資料番号 ページ数
お	大雨注意報	気象庁が、大雨によって災害が起こるおそれがある場合に、注意喚起のために発表する予報のこと。(関連項目：大雨警報)	資料3 p.31 他 資料4 p.3 他
	お知らせ端末	阿蘇市と産山村に整備された光ネットワークにより行政と住民が双方向で情報交換が可能なツールのこと。 ■お知らせ端末の特徴 ○映像と音声で配信された情報をいつでも確認できる！ 定時の配信を聞き逃しても情報は端末機に保存されているので、いつでも何度でも再生してご覧になれます。 ○防災情報をいち早く配信！緊急放送機能！ 火事や災害時には最大音量で緊急放送を行います。 	資料3 p.31 他 資料4 p.88 他
か	崖錘 (がいすい)	急な崖等から落下した岩屑が急な崖の基部に堆積し形成される円錐状の地形のこと。	資料3 p.31 他 資料4 p.6 他
	崖錘堆積物	崖錐を形成する急な崖等から落下した堆積物のこと。	資料3 p.31 他 資料4 p.6 他
	間隙率 (空隙率)	土粒子のすきまの体積を土全体の体積との割合で表したもの。百分率で表現される。	資料2
き	記録的 短時間 大雨情報	数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨がもたらされるときに、気象庁より発表される情報。基準は1時間雨量歴代1位または2位の記録を参考に、概ね府県予報区ごとに設定されている。対象の降雨による災害の発生が懸念される程度の稀な雨量であることを周知することを目的とする。	資料3 p.29 他 資料4 p.90 他
	緊急速報 メール	気象庁が配信する緊急地震速報や津波警報、地方公共団体が発信する災害・避難情報などを受信することができる携帯電話向けサービス。	資料4 p.88
く	熊本県 統合型 防災情報 システム	熊本県が有する水防・海岸情報システム、土砂災害情報監視システム、防災情報システムの各最新情報と気象情報を一元化したシステムのこと。県民等を対象として各種データを公開している。	資料3 p.28 他 資料4 p.88 他
	熊本県 防災情報 メール サービス	熊本県が運営する防災に関するメールサービスのこと。気象注意報・警報、土砂災害警戒情報、地震情報、津波予報、火山情報、河川水位超過情報、避難勧告情報等が配信される。	資料3 p.28 資料4 p.98 他
	クリティカル ライン (CL)	土砂災害発生基準線の名称。スネークラインが本線を超過したときには、土砂災害の発生に対して危険な領域に入ったことを示す。	資料3 p.2 他

索引	用語	解説	資料番号 ページ数
け	溪岸	溪流の岸のこと。	資料3 p.6
こ	降雨波形	毎時間の降雨を時系列で並べたことにより形成される波形。降雨の特徴を把握するために用いられる。	資料3 p.5
	降下火砕物	噴火で噴出した岩石の破片（火砕物）が降下することにより形成される堆積物のこと。	資料3 p.22 他 資料4 p.56
さ	災害関連 緊急砂防 事業	風水害等により流域が著しく荒廃し生産された土砂が溪流に堆積する等、放置すれば次の出水により下流に著しい土砂災害を及ぼすおそれのある場合に緊急的に実施する砂防事業。原則的に年度内に完成させることが必要である。	資料3 p.6 他
	災害関連 緊急治山 事業	災害により新たに発生し、又は拡大した荒廃山地又はなだれ発生地につき、当該発生年に緊急に行う復旧整備に係る保安施設事業。	資料3 p.6 他
	最大時間 雨量	ある期間内に観測される時間雨量の最大値のこと。一年毎の最大値を統計量として用いることが多い。	資料3 p.1 他 資料4 p.21 他
	砂防堰堤	山地や溪流からの土砂の流出を防ぐために、山間部や溪流に設ける堰堤のこと。 不透過型砂防堰堤は、土砂を貯めて溪流の勾配を緩やかにする働きや一度に大量の土砂が下流に流れ出ることを防ぐ働きがある。また、透過型砂防堰堤は、普段は流れてくる土砂は貯めずに下流に流し、土石流が起きた場合にだけ土砂や流木を食い止める働きがある。	資料3 p.26 資料4 p.10 他
	山地災害 危険地区	林野庁の調査により把握される山腹崩壊、地すべり等による災害が発生するおそれがある地区 《山腹崩壊危険地区》 山腹崩壊（落石による災害を含む）による災害が発生するおそれがある地区 《地すべり危険地区》 地すべりによる災害が発生するおそれがある地区 《崩壊土砂流出危険地区》 山腹崩壊又は地すべりによって発生した土砂又は火山噴出物が土石流等となって流出し、災害が発生するおそれのある地区 山地災害危険地区は、危険度に応じて高い方から A、B、C に分類される。	資料3 p.20 他
	山腹工	山地に対して土砂流出等による災害を防止するために行う工事のこと。山腹斜面を安定されるための山腹基礎工、植生で被覆する山腹緑化工、苗木を植栽する山腹植栽工に区分される。	資料3 p.26

索引	用語	解説	資料番号 ページ数
し	自主防災組織	防災を目的として地域住民により自主的に組織される組織のこと。平常時においては、防災訓練の実施、防災知識の啓発、防災巡視、資機材の共同購入を、災害時においては、初期消火、住民等の避難誘導、負傷者等の救出・救護、情報の収集・伝達、給食・給水、災害危険箇所等の巡視等を行う。	資料3 p.27 他 資料4 p.89 他
	実効雨量	過去に降った雨量の影響を時間とともに減少させて計算した雨量の目安となる指標。実効雨量は、半減期（地表や地下に残った雨量が降った雨量の半分になるまでの時間の長さ）を設定し、それに応じて算出される過去の雨量と現在の雨量の和により求められる。	資料3 p.1 他
	侵食	土砂礫等が、水等により削り取られる現象のこと。（関連項目：堆積）	資料3 p.6 他 資料4 p.23 他
	侵食区間	溪流において、主に侵食が発生する区間のこと。急勾配で、溪岸に土砂が堆積している場合に侵食が発生しやすい。（関連項目：堆積区間）	資料3 p.6 資料4 p.23 他
	浸水	洪水等により水につかること。	資料3 p.6 他 資料4 p.1 他
	浸水範囲	浸水の及ぶ範囲のこと。	資料3 p.6 資料4 p.23 他
す	垂直避難・水平避難	一般に、垂直避難は、自宅や近隣の高層階への垂直方向の避難を指し、水平避難は、避難所等や同一建物内での水平方向の避難を指す。土砂災害においては、避難所への避難が困難な場合に、なるべく高層階の山から遠い側への避難を行うことで、人的被害を減少することが期待される。	資料2 資料3 p.32 他
	スネークライン	短期降雨指標（例えば時間雨量や1.5時間を半減期とする実効雨量）と長期降雨指標（例えば72時間雨量を半減期とする実効雨量）を両軸として描かれる降雨の軌跡をスネークラインと呼ぶ。	資料3 p.2 他
せ	0次谷	常時表流水のない谷型の地形をいう。本資料では、地形図の等高線の凹み具合から、凹んでいる等高線群の間口よりも奥行が小なる地形としている。（関連項目：1次谷、2次谷）	資料3 p.6 他 資料4 p.23 他
	遷緩線 （せんかんせん）	<p>斜面上方から見て、勾配が急減する点のことを遷緩点といい、遷緩線は遷緩点を結んで出来る線のことである。（関連項目：遷急線）</p>  <p>図：遷緩点、遷急点のイメージ （土砂災害調査マニュアル、p.29 より引用）</p>	資料4 p.57 他

索引	用語	解説	資料番号 ページ数
せ	遷急線 (せんきゅうせん)	斜面上方から見て、勾配が急増する点のことを遷急点といい、遷急線は遷急点を結んで出来る線のことである。(関連項目：遷緩線)	資料4 p.57 他
	全国瞬時警報システム (J-Alert)	弾道ミサイル情報、津波情報、緊急地震速報等、対処に時間的余裕のない事態に関する情報を、人工衛星を用いて国(内閣官房・気象庁から消防庁を経由)から送信し、市区町村の同報系の防災行政無線等を自動起動することにより、国から住民まで緊急情報を瞬時に伝達するシステム。 	資料3 p.28 他 資料4 p.101
	扇状地堆積物	扇状地は、谷出口等の河川勾配が緩くなる地点において、土砂が堆積することにより形成される扇状の地形を指す。扇状地堆積物は、扇状地において堆積した構造物のこと。	資料4 p.24 他
	前兆現象	土石流や斜面崩壊などの土砂移動現象の発生前に、山腹斜面や溪流で見られる兆候。 ○土石流 ・土臭い臭い・地鳴り・流水の急激な濁り ・溪流水位の急激な変化・溪流内での転石など ○がけ崩れ ・湧水の変化・小石の落下・地鳴り・亀裂 ・斜面のはらみだしなど ○地すべり ・地鳴り、山鳴り・地面の震動・亀裂、段差など	資料3 p.32 他 資料4 p.88
た	堆積	土砂礫等が、流水等の作用と重力により集積すること。(関連項目：侵食)	資料3 p.6 他 資料4 p.6 他
	堆積区間	溪流において、主に堆積が発生する区間のこと。遷緩点においては、流速が遅くなり土砂を流下させる能力が低下することから堆積が発生しやすい。(関連項目：侵食区間)	資料3 p.6 資料4 p.23 他
	谷止工	小溪流や山腹のルル・ガリに築造される高さの低い構造物。ルルとは細い溝のことで発達したものがガリ。	資料3 p.24 他 資料4 p.40 他
ち	地域防災計画	地方防災会議、地町村長または地方防災会議の協議会が、当該地域の防災に関して作成する計画のこと。災害予防に関する事項、災害応急対策に関する事項、災害復旧・復興に関する事項等について、防災関係機関のとるべき措置等を定める。	資料3 p.31 他 資料4 p.87 他

索引	用語	解説	資料番号 ページ数
ち	治山堰堤	溪床の侵食を防止することで山脚（山すそ）を固定し、林地の保全を図る堰堤のこと。	資料4 p.34 他
て	ティーセン分割	ティーセン分割は、広域の降雨量を求めるために、複数の雨量観測所が存在する場合に、それぞれの雨量観測所に代表される領域を幾何学的に分割する方法の一つ。雨量観測所間を1辺とする垂直二等分線により形成される多角形に囲まれる範囲を中心となる雨量観測所で代表させる。	資料4 p.24 他
と	土砂災害危険箇所	国土交通省の調査基準により把握される土砂災害の発生のおそれのある危険な箇所 《土石流危険溪流》 土石流の発生する恐れのある溪流で、人家（人家がない場合でも官公署、学校、病院等の公共的な施設等のある場所を含む）に被害を及ぼすおそれのある溪流。 《急傾斜地崩壊危険箇所》 傾斜度 30 度以上、高さ 5 メートル以上の急傾斜地で、人家（人家がない場合でも官公署、学校、病院等の公共的な施設等のある場所を含む）に被害を及ぼすおそれのある箇所。 《地すべり危険箇所》 地すべりの発生する恐れのある箇所で、人家（人家がない場合でも官公署、学校、病院等の公共的な施設等のある場所を含む）に被害を及ぼすおそれのある箇所。国土交通省所管の地すべり対策事業が実施される可能性がある箇所。	資料3 p.6 他 資料4 p.1
	土砂災害警戒避難基準雨量	土砂災害発生の危険性を評価する雨量を基に計算した警戒避難の基準となる指標のこと。	資料3 p.36 資料4 p.4 他
	土砂災害発生危険度（レベル）	熊本県が発表する土砂災害発生の危険度のこと。危険度レベルが上昇するにしたがって、土砂災害発生の危険性も高まり、「土砂災害発生危険ライン」を危険度レベル 10 とする。	資料3 p.33
	土砂捕捉	砂防堰堤・治山堰堤等において河道を流下した土砂を停止・堆積させること。	資料3 p.6 他 資料4 p.23 他

索引	用語	解説	資料番号 ページ数
と	土石流 危険渓流	<p>土石流危険渓流は、土石流が発生する危険性があり、人家または学校などの公共施設に被害をもたらす可能性がある渓流をいう。土石流危険渓流は、土石流の氾濫・堆積が想定される区域内の保全対象戸数等に応じて、次のように分類されている。</p> <p>【土石流危険渓流Ⅰ】 想定氾濫区域内に保全人家戸数が 5 戸以上分布する、または、保全人家 5 戸未満であっても官公署、学校、病院、災害時要援護者施設、駅、発電所等の公共施設が分布する渓流。</p> <p>【土石流危険渓流Ⅱ】 想定氾濫区域内に保全人家戸数が 1 戸以上 5 戸未満分布する渓流。</p> <p>【土石流危険渓流Ⅲ】 想定氾濫区域内に保全対象は分布していないが、都市計画区域内で今後住宅等の新築の可能性があると考えられる渓流。</p> <p>※分類については急傾斜崩壊危険箇所Ⅰ、Ⅱ、Ⅲについても同じ</p>	資料 3 p.6 他 資料 4 p.1 他
	土石災害 危険度指標 の把握	土石災害の危険度レベルを把握すること。	-
	土石災害 警戒情報	<p>大雨警報が発表中にさらに雨が降り続き、土石災害発生の危険性がさらに高まった時に発表する情報で、</p> <p>①市町村長が、防災活動や住民への避難勧告等の災害応急対応を適時適切に判断できるように支援する。</p> <p>②住民の自主避難の判断にも利用できるようにすること。を目的としている。</p> <p>(関連項目：大雨警報)</p>	資料 3 p.27 他 資料 4 p.3 他
	土石災害の 危険度レベル	土石災害発生の危険度を表す。危険度レベルが上昇するにしたがって、土石災害発生の危険性が高くなる。なお、危険度レベル 10 を「土石災害発生危険ライン」としている。	資料 3 p.37 他 資料 4 p.4 他
	土石災害発生 危険ライン	過去に土石災害が多発したときの降雨状況から決められた基準である。降雨が土石災害発生危険ラインを超えると土石災害が発生する危険性が特に高まっていることを示している。	資料 3 p.32 資料 4 p.4

索引	用語	解説	資料番号 ページ数
と	土砂災害 防止法	<p>正式名称：土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律</p> <p>土砂災害から国民の生命を守るため、土砂災害のおそれのある区域について危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地の抑制、既存住宅の移転促進等のソフト対策を推進することを目的とした法律。</p> <p>《土砂災害警戒区域》</p> <p>急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備がなされる。</p> <p>《土砂災害特別警戒区域》</p> <p>急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると求められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等がなされる。</p>	資料3 p.31 他
	土砂収支 (表)	ある期間の土砂移動を定量的に表現するためのもので、流域・河道区間ごとの流入土砂量、流出土砂量及びその区間の堆積・侵食土砂量で示される。	資料4 p.28 他
	土壌雨量 指数	<p>土壌雨量指数とは、降った雨が土壌中に水分量としてどれだけ貯まっているかを、これまでに降った雨（解析雨量）と今後数時間に降ると予想される雨（降水短時間予報）等の雨量データから「タンクモデル」という手法を用いて指数化したもの。</p> <p>（土壌雨量指数は、各タンクに残っている水分量（貯留量）の合計）</p> <div data-bbox="533 1279 1137 1576" data-label="Diagram"> </div> <p>図：タンクモデルのイメージ</p>	資料3 p.35 資料4 p.4
な	中安総合 単位図法	降雨量、流域特性を基に流量を計算する手法の一つ。単位図法においては、ある時間の降雨量に対する、その後の時間毎の流出の比率を一定とみなして、降雨波形に応じた流出量の波形を計算する。中安の手法では、単一降雨に対する流出特性を、流域面積と最大流路長（谷の出口から最上流までの河川の長さ）を用いた経験式に基づき設定する。	資料4 p.24 他
は	パイピング	地盤に浸透した地下水によって地盤中の細かい粒子が洗い出され、地盤内にパイプ状の水みちができる現象。できた水みちを、パイピング孔という。	資料3 p.6 他 資料4 p.58 他

索引	用語	解説	資料番号 ページ数
は	肌落ち	斜面の表層の土砂や岩の一部が自然に崩れ落ちること。	-
	バックビルディング現象	バックビルディング現象は積乱雲が連続して発生する現象である。積乱雲は雨を降らせることにより下層に周囲より冷たい空気が生まれる。そこに暖かく湿った空気が流れ込み、冷たい空気の上に乗上げる形になり、新たな積乱雲が発生する。このサイクルを繰り返すことで、風上側に次々と積乱雲が発達する。	資料 3 p.24 資料 4 p.11
	はらみだし	地表面がふくれて、押し出されること。	資料 3 p.6
	半減期 (1.5 時間、 72 時間)	実効雨量の計算において、過去の雨量の影響を半分とする時間のこと。半減期を 1.5 時間とすれば過去の雨量を小さく見積もるために短期的な降雨を優位に評価することになる。一方、72 時間を半減期とする場合には、数日前の降雨も評価されることから、中長期の降雨を含めた降雨量を評価することになる。	資料 3 p.2
ひ	表層崩壊	斜面崩壊の内、厚さ 0.5～2.0m 程度の表層土と基盤層の境界に沿って滑落する規模の小さな崩壊現象のこと。	資料 3 p.22 他 資料 4 p.23 他
へ	平均河床勾配	河川のある区間における河道の底面（河床）の勾配の平均値のこと。より急流である場合に大きい値となる。	資料 4 p.23 他
	平年値	ある一定の期間の値の平均値のこと。2011 年から 2020 年までの期間に気象庁が公表する平年値は、1981 年から 2010 年までの平均値のことを指す。	資料 3 p.4 他 資料 4 p.11
ほ	崩壊残土	崩壊により落ち残った土砂のこと。	資料 3 p.6 資料 4 p.23 他
	崩壊地	崩壊の発生した場所のこと。	資料 3 p.6 資料 4 p.23 他
	防災行政無線	国及び地方公共団体が非常災害時に災害情報や警報を収集・伝達するために整備している防災無線システムのこと。	資料 3 p.30 他 資料 4 p.86 他
り	流域平均雨量	河川の流域ごとに面積平均した雨量のこと。	資料 4 p.24 他
	流木	河川、溪流内を流下・堆積する木・木材のこと。家屋等に衝突することによる被害をもたらす他、橋梁部において閉塞した場合に氾濫被害をもたらすことが懸念される。	資料 3 p.6 他 資料 4 p.9 他
る	累加雨量	雨が降りだしてからの雨量の合計のこと。砂防分野においては 24 時間連続で降らない場合には以降の降雨は別の降雨と見なし、累加雨量は 0 として計算することが多い。	資料 3 p.1 他 資料 4 p.3 他
れ	レーダー雨量	レーダー雨量計は、レーダーから発射される電波が雨滴（雪）にあたって反射してくる量と時間と方位を測定することにより、大気中に存在する雨滴などから反射される電波強度から雨量を算出したもの。観測に用いるレーダーの波長帯により以下の種類が存在する。 ①C バンドレーダー ②X バンド MP レーダー	資料 4 p.12 他